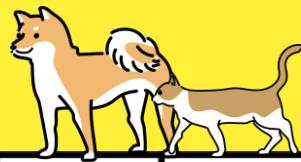


「いざ」というとき、



同行避難とは、災害発生時に飼い主が飼育しているペットと一緒に安全な場所へ避難することです。

※避難所で人とペットが同一の空間で居住できることを意味するものではありません。

できますか？

こたえ

タテ

- ペットの感染症や臭いのトラブル防止のため、寄生虫の予防やシャンプー・トリミングを行い、ヒラ(皮膚)を清潔に保ちましょう。
- 避難所での生活に備えて、「待て」「お座り」などの基本的なシツケを行いましょう。
- 大雨等で河川のソウ(増)水による被害が生じるおそれがある場合は、あらかじめ飼養場所を移動させたり対策を講じておきましょう。
- 猫の健康と安全を守ると同時に、災害時に行方不明にならないためにも、猫はシツナイ(室内)で飼育しましょう。
- 避難する際は、通電火災が発生する可能性やガス漏れの発生を防ぐため、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めてから避難しましょう。
- 防災対策は、飼い主自ら災害に備える「自助」、チイキ(地域)住民で防災に取り組む「共助」が重要です。
- 川口市防災ハンドブック（防災本）に掲載されているハザードマップをもとに、避難所までの安全なルートを確認しましょう。
- 大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、ガラスや家具から離れ、丈夫なテーブルのシタ(下)に身を隠すなど安全を確保し、揺れがおさまるまで待ちましょう。
- ペットが迷子になってしまった時に備えて、鑑札、迷子札、マイクロチップなどによる所有者明示を行いましょう。
- リードやハーネス・クビワ(首輪)は、状況によっては破損することもあるので、予備のものを用意しておきましょう。

